

2005 年 12 月 20 日

第 356 回常任幹事会提出資料

民主党日韓議員交流委員会訪韓団 報告書

2005 年 11 月 23 日～25 日



1. 団構成

団長	：	中川 正春	国会对策副委員長・衆議院議員 民主党日韓議員交流委員会副委員長
副団長	：	末松 義規	国際局長・衆議院議員 民主党日韓議員交流委員会事務総長
事務局長	：	白 眞勲	国際局副局長・参議院議員 民主党日韓議員交流委員会委員
団員	：	渡辺 周	「次の内閣」ネクスト総務大臣 衆議院議員 民主党日韓議員交流委員会委員
	：	福山 哲郎	調査局長・参議院議員 民主党日韓議員交流委員会委員
	：	泉 健太	青年局長・衆議院議員 民主党日韓議員交流委員会委員
	：	田島 一成	地方自治体局次長・衆議院議員 民主党日韓議員交流委員会委員
随行事務局	：	アリスン・バーニクル	国際局 副主査
	：	田島 央一	末松議員公設秘書

2. 日程

11月23日(水)

20:00～ 大使館員との夕食会 (於:焼肉店「コムソッチブ」)

11月24日(木)

07:15～08:15 大島大使主催朝食会 (於:ロッテホテル)
09:00～12:00 ウリ党とのシンポジウム (於:国会議事堂内貴賓食堂)
以下の三つのテーマについて各党の意見開陳
1名の議員が発表する
* 歴史認識
* 南北関係と日本
* 日韓F T A
12:00～ 丁世均(チョン・セギョン)ウリ党議長兼院内代表主催
昼食会
13:30～ オードゥサン統一展望台視察
清溪川(チョンゲチョン)視察
17:00～ 文喜相(ムン・ヒサン)韓日議連会長表敬
(於:韓日議連事務所)
19:00～ 邦人特派員との夕食会(於:ファイナンス・センター)

11月25日(金)

09:30～10:20 朴槿恵(パク・クネ)ハンナラ党総裁表敬
(於:国会議事堂内)
11:00～ 金槿泰(キム・ギンテ)保健福祉部長官表敬
(於:果川 総合庁舎)
14:00～ 李揆亨(イ・ギョヒョン)外交通商部次官との面談
(於:外交通商部)
15:00～ 鄭東泳(チョン・ドンヨン)統一部長官表敬
(於:総合庁舎)

3. 概要と成果

毎年両国間で行われているシンポジウム開催が主な訪問目的であるが、今年は、特に小泉総理の靖国神社参拝問題や竹島問題などを含め両国首脳の不適切な対応によって齟齬が生じている日韓関係について、民主党の考えを明示し、民主党の存在感をアピールしていくことが重要な目的となった。シンポジウムでは、韓国側との間で極めて率直な討論がなされ、大統領には会えなかったものの主要閣僚を含む要人との実りある会談も実現、また、具体的な共同計画も了承され、当初の目的は達せられた。主要点は以下の通り。

① 靖国問題を含む歴史問題で、民主党の一貫した政策をアピールし、小泉政権との違いを明確にし得たことで、韓国側より、民主党政権実現への期待が多く発せられた。

また、日韓双方から、「両国首脳が、政治目的のために、お互いのナショナリズムを刺激していることが問題である」との認識が示された。

② 対北朝鮮問題では、日本における拉致問題の重要性を引き続き強調し、国連等の場で、拉致問題を人権侵害問題の一環として取り上げるべきことを主張した。韓国側は、日本の国民感情は十分理解できるとしつつも、6者協議の場では、まず、核廃棄問題に全力を投入すべきとの考え方を繰り返すにとどまった。

③ 日韓F T A締結問題については、日韓双方とも早期締結の必要性を共通に認識し、双方の可能な努力を加速することを約束した。韓国側は、日本政府が交渉をストップさせているとの認識。韓国側の早期締結主張の背景としては、中国の追い上げ等による韓国技術基盤弱体化への懸念あり。

④ 韓国側の協力を経て、民主党議員が韓国国会議員とともに、北朝鮮のケソン工業地帯を訪問することが支持され、具体的な検討に入ることとなった。

⑤ 両党首をはじめとするウリ党・ハンナラ党両党の議員と率直な意見交換ができ、両党との党間交流をさらに深めることができた。

⑥ オードゥサン統一展望台を訪問し、北朝鮮の人々の様子を垣間見と同時に、韓国の人々の南北統一への熱い思いを感じた。

5. 主な会談の概要

ウリ党とのシンポジウム：「未来志向の韓日関係に向けて」

時間：11月24日、09：00～12：00

於：国会議事堂内貴賓食堂

1. 基調演説（両国）

- ・両国の首脳が相手国のナショナリズムを互いに刺激し合っている側面があり、そのために日韓関係が停滞しているのは遺憾である。
- ・経済・文化交流とも良い方向で拡大しているので、これをさらに促進していくべきである。
- ・靖国神社参拝問題を含め歴史問題で、韓国側が騒げば騒ぐほど、日本のナショナリズムを刺激し、両国の溝が深まっていくことに留意すべきだ。



2. 歴史認識等

○韓国側

- ・日本の違法な植民地支配の歴史認識を明確に共有すべし。
- ・日本が右傾化してきているのを憂慮。
- ・過去の日本帝国主義の清算を促進すべし。
- ・小泉首相の靖国神社参拝は許容できない。
- ・日本側が、まず、コントロールしてきた靖国や竹島問題を持ち出して火をつけた。日本側がしっかりと歴史問題が再燃ないようにコントロールすべきだ。
- ・靖国神社には、韓国人2万人が、遺族の了解なく合祀されており、大きな問題だ。
- ・侵略戦争を美化した歴史教科書を検定して認めたのは問題だ。
- ・独島問題については、日本が最初に領有キャンペーン（島根県）を行ったのが

発端であり、認めがたいことだ。また、国際司法裁判所への提訴は認められない。

- ・ 1965年の日韓協定は、植民地主義の謝罪もなく、当時の朴政権が経済苦の中、締結したものであり、正当なものとは言えない。
- ・ 1910年の日韓併合条約を無効と認めた上で、新協定を締結すべきである。
- ・ 韓国への永住帰国希望するサハリン残留者へのサポート法案を策定中。民主党も支持して欲しい。

○日本側

- ・ まず、日韓双方の現役世代には、過去の植民地支配・被支配の経験が一切ないことを確認した上で、議論すべき。
- ・ 日本のナショナリズムが高まってきたのは、北朝鮮の核ミサイル開発動向や、小泉総理の靖国神社参拝といった問題が背景にある。
- ・ 小泉総理の靖国神社参拝を民主党は、厳しく批判している。民主党が政権を取れば、総理を含む主要閣僚は靖国神社参拝しない。
- ・ 民主党は、国立追悼施設建立を主導してきており、現在、超党派で、建立の予算化を図っているところだ。
- ・ 竹島問題は、双方が領有権を主張しており、収まりはつけられない状況。国際司法裁判所に提起するか、問題そのものを封印するしかないだろう。
- ・ 教科書問題は、結局、問題の歴史教科書の採用率が0.4%に留まったところに日本人の良識が示されていると思う。
- ・ 日韓協定は当然有効であるが、韓国国民と韓国政府との間の心情問題が適切に処理されていないところは、必要なフォローが重要。
- ・ サハリンの朝鮮人帰国法案は、民主党へも進捗状況を情報提供して欲しい。

3. 南北問題と日本

○韓国側

- ・ ケソンには、5000人の北朝鮮労働者と500人の韓国人労働者がおり、両国協力の象徴として機能している。
- ・ 拉致問題は、北朝鮮から言わせれば、日本の朝鮮人連行問題に突き当たる。
- ・ 日本に、人権を言う資格があるのか疑問である。
- ・ 南北の理念対立の時代は終わった。統一朝鮮は、自由と民主主義の国となる。
- ・ 武力衝突は、いずれにしても南北統一の邪魔になる。
- ・ 中国の胡錦濤主席が、訪朝して、20兆円に及ぶ北朝鮮の地下資源を買いまくったという情報があり、懸念している。
- ・ 総理以上に、次期総理といわれる安部官房長官に対する右傾化の懸念がある。
- ・ 7000人以上の脱北者を韓国に受け入れて定住させてきた実績あり。
- ・ 韓国としても、経済協力を通じて、北の人権状況の改善を促している。

- ・日本に近現代史教育が行われていないというのは、信じられない。

○日本側

- ・韓国が、北朝鮮を称揚するというのは理解しがたいものがある。
- ・北の人権侵害問題に、韓国が国連で棄権したのはショックだった。是非、棄権ではなく、支持して欲しい。
- ・韓国と北との話し合いや視察に、民主党議員を参加させて欲しい。
- ・白氏、「10年前には、自分は当選できなかった。焼き肉も受け入れられた。」
- ・白氏、韓国側の言い方として、「靖国に行くと、心が痛むと言ってくれ」
- ・価値観の共有をすることがとても重要だ。
- ・日本の歴史教育は、近現代史を十分教えていないので、日韓の歴史認識にギャップがある。この事情も把握しておいて欲しい。

4. F T A問題

○韓国側

- ・F T Aは、短期的には、韓国側に不利だが、中期的には、韓国の競争力を上げる。
- ・日韓は、競合関係分野が多い。この点、韓国に不利。労働界の一部も反発。だから、日本側の農産品の譲歩して欲しい。
- ・日本側の非関税障壁を取り払うことを期待する。両国で共同研究しよう。
- ・戦略的共同開発、中小企業発展、投資の拡大を企図すべし。
- ・日本側が唱えた「ハイレベルのF T A」という概念を具体化してくれ。
- ・韓国の農産物戦略は、日本側に対して攻撃的ではない。
- ・韓国は、中国の急激な発展に対抗するために、日本との連携がとても重要と認識。
- ・農業問題は、W T Oが終われば、市場解放せざるを得ない。
- ・韓国は、「食糧自給率が20%まで下がっている」のが大問題。
- ・のり問題でW T Oに日本が提訴しているのは、理解に苦しむ。
- ・民主党が早く政権を取って欲しい。

○日本側

- ・「韓国側が貿易赤字の拡大を懸念して交渉を止めているのではないか」との認識。
- ・水産物は問題ない。韓国側から、この分野を拡大してくれとの提案が重要。
- ・知的所有権の保護の問題を解決するために、韓国側の法的整備が遅れているのではないか。
- ・自民党職員の話。「近現代史を教えないのは、日本の陰の部分の教えないように」。
- ・日本の農産物保護が問題になっているのは認識。農業の構造改革が必要。
- ・早く進めなければならない。理由は、中国の進出への懸念やカナダなどの進出。
- ・日韓共同石油購入。日韓共同石油備蓄。日韓共同エネルギー対応（対ロシア）を

検討しよう。

丁世均（チョン・セギョン）ウリ党議長兼院内代表主催昼食会

時間：11月23日12：00～13：15

於：国会議事堂内貴賓食堂

- 丁世均ウリ党議長兼院内代表の他にウリ党国会議員7名とともに昼食懇談会が行われた。
- ウリ党議長：これからもうこういう機会を通じて、日本と韓国との様々な議論、また親交を深めていける事を願っている。また、ウリ党と民主党の相互の発展、日韓関係が良好になるよう祈念しております。日本の政治を参考にしながら行動していく事が多くある。
- 中川団長：日韓において政治的な文化等が同質化してきたのではないか。先の衆議院選挙において、民主党は自民党に負けたのではなく、小泉首相に負けたのではないかと考えている。外交関係ではアジアを重視しているのが民主党の立場。韓国から一番学びたいのは、韓国政治のダイナミズム、そして政権交代のメカニズム。あと、これからは話しあいだけでなく、具体的なアクションを起こす時期にきている。民間レベルでも政治がひとつの見本となりうるようにこれから、共に行動したい。

文喜相（ムン・ヒサン）韓日議連会長表敬訪問

時間：11月24日17：00～

於：韓日議連事務所



- 中川団長：私の後援会である大学の先生のもと、我々のルーツを探る韓国の旅を計画している。歴史認識をさかのぼると「なるほど」と納得するようになる。共通の民族、価値観、文化のルーツをもっと強調してもいいかもしれない。
- 中川団長：北東アジアは、ひとつのルーツと文化と価値観を持っている。日韓議員連盟で、もっとその古いルーツから、歴史を見直してはどう？

- 文会長：21世紀は、アジアの世紀というのは、本当に正しい。ある歴史学者によると、歴史の流れはどんどん西へと進む。まずは、パックス・ロマナ。次は、パックス・ブリタニカ。そして、パックス・アメリカナ。今度は、パックス・アジアの時代が来ている。しかし、アジアが一世紀ほど世界をリードするためには、EUのような経済共同体を作る必要がある。そして、その後、政治的な共同体も必要となるだろう。日本が日米同盟を重視しているのは理解できるが、アジアを無視してはいけない。

朴槿恵（パク・クネ）ハンナラ党総裁表敬訪問

時間：11月25日9:30～

於：国会議事堂内



- 中川団長：日韓政府間で難しい問題を抱えている。野党同士として、しっかりとした対応をとらないといけない。その目的を持って、今日こちらに来た。最近、日韓関係は経済、文化、価値観などが共有されているので、二国間関係がますます重要になっているが、政治面でうまくいかない。小泉首相とノ・ムヒョン大統領がぶつかり合って、必要以上にナショナリズムを高めているのは、好ましくない。そのような中、政治家同士の理解が特に必要。
- 朴総裁：教科書問題、靖国問題、歴史問題を解決するため、日韓は協力しないといけない。日韓関係を促進するにはこういう交流が必要。両国の信頼関係が強くないといけない。FTA問題も早く解決する必要がある。北朝鮮人権問題に関しては、ハンナラ党が法案を国会に提出した。そして、国連の人権決議案を支持するように韓国政府に積極的呼びかけたが、努力が実らなかった。
- 中川団長：人権について共通の価値観があると思う。韓国にも拉致問題があり、北朝鮮国内にも人権問題がある。国連等でこの問題に取り組みたい。民主党も人権法案を作って提出したので、それぞれの国会でやっていこう。靖国問題に関しては、民主党内で何年か前から国立追悼施設を作るという動きがある。我々はアメリカとの関係を大事にし

ているが、アジア共同体を作るため、日韓協力が大事。マニフェストにそのことがはっきりと書いてある。

- ハンナラ党議員（韓日議連副議長）：民主党が、在日韓国人の地方参政権を基本的に支持していることに感謝する。日、中、韓がより近くなれないといけない。それぞれのトップがナショナリズムへと走ってはいけないと思う。韓国人は、これ以上悲惨な過去について考えたくない。私達がそうしなくていいようにしていただきたい。

金槿泰（キム・グンテ）保健福祉部長官表敬訪問

時間：11月25日 11：00～

於：果川 総合庁舎



- 民主党と同じ政策路線なので、今回の日本での選挙に非常に興味を持っていた。
- 中川団長：今回、政党としてウリ党、ハンナラ党との交流を行うため訪韓した。この交流は3年前くらい前に始まったが、今回はよりしっかりと意見交換をしたい。選挙は惨敗した。小泉さんのマスコミ対策に負けた。
- 民主党側から、韓国の年金と子育て問題、鳥インフルエンザ問題、高齢少子化問題、アスベスト問題に対する韓国政府の対応に関して質問があった。
- 金長官：21世紀は、お互いに協力すれば、未来が希望に満ちたものになる。東アジアの新しい秩序には日本と韓国が大事。両国の間には感覚の違いがある。韓国では、占領された時代に関する議論がまだ終わっていない。現在、以前より多くかつ活発な議論が行われている。
- 金長官：鳥インフルエンザは2003年11月に韓国で報告された。朝鮮半島は渡り鳥の通り道にある。昨年秋、感染した鶏と鴨が北朝鮮で多く見つかった。そのとき、韓国は支援をした。そして、北朝鮮に隣接している州でも感染した鳥がたくさん見つかった。この問題を懸念している。韓国の国民は不安を感じたが、今は一旦落ち着いている。対策が必要だが、まず、よく考える必要がある。あまり不安になってはいけない。国際協力

が重要。薬の問題もある。どこまで効くのをわからないから。まずWHOを中心とした対応が必要だ。

- 金長官：少子化問題は韓国にとって非常に大きい問題だ。90年代の日本ではいわゆる「1.5ショック」があったが、2004年には韓国の出生率は1.16%になった。よりよい対策を考える必要がある。高齢化とも関連している。農耕社会では超高齢化も進んでいて、場所によって高齢者が20%を超えている。その速さはビックリするほどのもの。経済面の負担も大きい。国民年金では、日本は改革を行っていると聞くが、これは韓国の頭の痛いところ。哲学の問題として考えている。そのなか、ハンナラ党は減税を主張して、福祉政策に対して大きな抗議をしている。子育てに対しては、我々は社会の中で子供を育てると考えている。

李揆亨（イ・ギョヒョン）外交通商部次官との面談

時間：11月25日14:00～

於：外交通商部

日韓両国が抱えている様々な政治問題について、意見交換が行われた。

鄭東泳（チョン・ドンヨン）統一部長官表敬訪問

時間：11月25日15:00～

於：総合庁舎



- 中川団長：六者協議での核問題解決への韓国の強いリーダーシップを評価する。しかし、日本としては、拉致問題が大きな問題となっている。拉致問題も六者協議で取り上げるようご理解とご協力をお願いする。そして、太陽政策の現状を見るため、韓国の国会議員と一緒にケソンに行きたい。
- 鄭長官：ケソン訪問は素晴らしいアイディアと思う。民主党とウリ党が目標としている

政治改革は似ているので共感している。特に、外交政策ではアジアを重視するということの評価している。東アジアの平和と発展の最大な壁となっているのが、北朝鮮の核問題。21 世紀において、この地域の発展のため、日本、そして、アメリカとの協力を強調したい。ヨーロッパでは、大戦後、フランスとドイツが協力し、結果的に E U という経済的統合体ができ、その後、政治的統合も進んでいる。日韓は、民主主義、人権尊重、市場主義という共通価値観を持っているので、もっとこの地域のため協力すべき。北朝鮮への経済援助は、経済だけの利益ではなく、平和という利益のためになる。

- 民主党議員から、韓国は南北統一を望んでいるが、日本としてはそれが北朝鮮の国家テロ事件をないものとしているように思える。韓国には日本の数倍の拉致被害者がいるので、日本の気持ちを理解してほしいという発言があった。
- 鄭長官：統一を目指して、平和と共存に挑んでいる。次は完全な統一。拉致問題があるが、それにとらわれてしまうと前進しない。2020 年までには南北共同経済体制を作りたい。

6. 民主党日韓議員交流委員会訪韓団の関連記事（韓国メディア）

【中央日報】

2005. 11. 25 17:49:43

朴槿恵代表「厳しい韓日関係、残念」

野党ハンナラ党・朴槿恵（パク・クンヘ）代表は、25日「韓日友情年である今年、神社参拝、独島（ドクト、日本名・竹島）、教科書問題などが浮き彫りになって両国関係が厳しくなり、残念に思える」と述べた。朴代表はこの日、与党「開かれたウリ党」（ウリ党）とのシンポジウムのため来韓した日本・民主党議員代表団に会った際、このように話した。

朴代表は「両国はさらに多くの交流と対話を通じて問題を賢明に解決し、現在の厳しい状況を打開、関係を発展させていくべき」と強調した。これを受け、民主党の中川正春衆議院議員は「韓国と日本が経済・文化の分野では活発に交流しているが、政治の面では順調に進んでいない部分がある」とし「政党レベルの交流を活性化すべき」と話した。

【朝鮮日報】

記事入力：2005/11/24 18:26

民主党中川議員「韓日両首脳が相手国の国粋主義刺激」

日本の第1野党である民主党の中川正春衆議院議員は24日、韓日首脳が相手国の国粋主義を互いに刺激しあっている側面があると指摘した。

中川議員は、同日韓国国会で開かれたヨルリン・ウリ党とのシンポジウムで「小泉首相の靖国神社参拝は政治的に緻密に計算された行動で、国粋主義的政治性に訴えながら権力基盤を強化しようというもの」とし、「韓国が敏感に反応すればするほど日本で参拝を支持する流れが定着する」と話した。

中川議員は「正直に申し上げると、盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領の姿勢にも相手国の国粋主義を刺激する態度が含まれている」と語った。また「靖国神社参拝、歴史教科書、独島（竹島）問題はのどに刺さった骨のような政治懸案」とも話した。

これに対してウリ党の丁世均（チョン・セギョン）議員は「日本の政治家らは周辺国家の憂慮に未来志向的に対処しなければならない」と話した。

同日の行事には日本から7名の議員が参加したものの、10名の参加を予定していた与党ウリ党からは5名が1時間遅刻して参加した。

これは同じ時刻に国会でウリ党議員総会のためだ。このため、午前9時20分ごろ日本の訪問団があいさつしに来たとき、韓国側の座席の半分以上が空いているという事態が発生し、

ウリ党は民主党側に謝罪の意を伝えた。

【連合ニュース】

朴代表が日本民主党と会談「韓日関係の悪化は残念」 2005-11-25

【ソウル25日聯合】野党ハンナラ党の朴槿恵（パク・クネ）代表は25日、日本の民主党議員代表団と会談し、「韓日友情年の今年、靖国神社参拝や独島、歴史教科書などの問題で両国関係が悪化し残念だ」と述べた。

朴代表は「さらに多くの交流と対話で問題を賢明に解決し、現在の困難な状態を踏まえた上で関係を発展させなければならない」とし、こう着状態にある両国の自由貿易協定（FTA）が早く締結されるべきだとの意見を述べた。民主党の中川正春国会対策副委員長が、北朝鮮の人権問題について韓日間で意見をともにすべきと言及したのに対し、朴代表は「ハンナラ党も北朝鮮人権問題に高い関心を持っている。韓国政府が国連の北朝鮮の人権侵害に関する決議案で棄権したことを強く遺憾に思う」と述べた。また、「人権問題については二重のもののさしはあり得ない。北朝鮮は人権がなくてもいいというような韓国政府の態度は理解できない」と指摘した。

中川副委員長は、「韓国と日本は、経済、文化部門で活発に交流しているが、政治面ではうまくいっていない部分がある。政党間の交流を活性化する一方で、拉致問題や人権問題も6カ国協議などを通じ共感を高めていけたらと思う」と希望した。

会談には、韓日議員連盟の権哲賢（クォン・チョルヒョン）副会長、李在春（イ・ジェチュン）国際委員長、劉正福（ユ・ジョンボク）代表秘書室長、朱豪英（チュ・ホヨン）議員、李季振（イ・ゲジン）報道官らが出席した。中川副委員長らは、与党・開かれたウリ党との共同シンポジウムのため韓国を訪れている。

（この連合ニュースを使う形で、慶南日報、デイリーアン、韓国経済、KBSテレビ、毎日経済、韓国経済、東亜日報、）

【YTNテレビ】

与党、日本民主党に過去反省要求

2005-11-24 11:37

開かれたウリ党は、今日、国会で日本の民主党と共同シンポジウムを開き、日本の政治家の靖国神社参拝など両国間の諸問題に対する日本側の反省を強力に要請した。

チョン・セギョン議長は、あいさつの言葉を通じて、小泉総理など日本の政治家が靖国神社を参拝し韓国国民に苦痛を与えたことは事実とし、日本の責任ある政治家が周辺国家の憂慮に対して未来指向的な措置をしなければならないと強調した。

カン・チャンイル、宋ヨンギを議員なども韓日の過去問題を正しく解決するため、日本の不法な植民地支配に対する真実の謝罪と賠償が必要であるとし、日本が韓国及び北朝鮮との関係を正常化しようとするのであれば、リーダーたちの発言が第一に重要であると指摘した。

これに対し、民主党韓国訪問団長である中川正春衆議院議員は、神社参拝はナショナリズム的政治性に訴えることで権力基盤を強化すると指摘しつつ、韓国がここに敏感に反応すればするほど、日本国内に参拝を支持する流れが定着するとし、韓国側の冷静な対応を要請した。